

東北学院大学五橋キャンパス整備計画

環境影響評価準備書に対する 市民意見及び事業者の見解

2019 年 5 月

学校法人 東北学院

準備書に係る意見の概要

意見の概要	事業者の見解
<p>●<u>景観について、研究棟に沿って緑化フェンスの内側に等間隔に高木を植えてほしい。</u></p> <p>研究棟を西側にセットバックすることで、過度な圧迫感を緩和する効果はあるが、無機質な構造物の壁・窓は町内にとって安らぎ・癒しの効果としては壁のデザイン・色調を工夫したとしても不十分である。研究棟に沿って、緑化フェンスの内側に等間隔で高木を植樹することで、安らぎ、癒しが得られ、町内と調和した研究棟に近づくと考えられる。</p>	<p>ご意見を踏まえ、敷地東側の研究棟沿いにおいては景観に配慮した緑化計画の中で高木の植栽を検討するなど、構造物の無機質さを緩和し、周囲に調和した建物となるよう検討いたします。</p>
<p>●<u>風害について、防風壁の最適設置場所、方向、最適高さを割り出し、風環境ランクでAになるようにしてほしい。最終的には供用後に風速計を木造住宅付近の要所に設置し、その測定結果からAランクになるように対策を検討してほしい。</u></p> <p>高層ビル群の直下（五橋キャンパスの北側・南側）に木造 2 階建て住居が多数あるため、風の方向と強さが分かるベクトルコンター図及び流跡図により、防風壁の最適設置場所・方向・高さを割り出し、低コストで効率の良い防風壁を設置し、風環境ランクでA（住宅地の風環境）にすることが必須になる。流跡図は北側及び南側を拡大し木造住宅地付近の風の流れを見た上で防風対策を考える必要がある。植栽は枝葉の状態が季節により変わるため、防風効果として期待できない。</p> <p>また、地上 1.5m～4.5m における強風域がおおむね敷地内に留まっているように見えるが、敷地に接する木造住宅（高さ 6.0m 程度）が壁になって止まっている可能性があるため、木造住宅を除いて再計算する必要がある。</p>	<p>防風対策については、現在敷地境界に高さ 3.0m の防風フェンスの設置や植栽を計画しており、対策前後におけるベクトルコンター図及び流跡図から、敷地境界周辺で風速が小さくなると予測しております。また、対象事業計画地周辺の風環境評価尺度は現況と大きな変化はなく、西側の幹線道路沿いを除いては概ね風環境Aランクに収まると予測しております。なお、防風対策の効果につきましては、予測の不確実性を考慮した上で供用後に現地調査（事後調査）を行い、その結果や風荷重等の設計条件も踏まえ、風環境の向上を目指し、設置高さの変更やその場所・方向について検討いたします。防風効果を求める植栽については、可能なかぎり常緑樹を配置し、枝打ちをせずに防風効果が維持できるように配慮します。</p> <p>また、事後調査では、住宅地に吹き抜ける風の影響を把握するため、敷地境界付近の北東側・南東側・南西側の 3 地点を基本とし、1 年間の風速を測定する計画としておりますが、周辺住民の方々と協議を行った上で適宜調査地点を検討いたします。</p> <p>なお、敷地周辺の木造住宅を除いての再計算は、構造物の配置が変わることで周辺における実際の風環境の変化を適切に評価することが困難となるため、上述の通り、適切に事後調査をおこない、調査結果を踏まえ追加措置の検討・対応をいたします。</p>
<p>●<u>供用後について、風害、景観その他の測定結果を町内会に示し、協議を継続すること。</u></p>	<p>供用後の事後調査について、各項目の測定結果等を取りまとめ、ご報告・協議いたします。</p>